

4 観光

	タイトル	意見等
1	高速バス利用時の 重大トラブルと観光 客対応改善について	私は県外から徳島県の大塚国際美術館を訪れるため、高速バスを利用しました。当日は渋滞による遅延については理解しておりましたが、その後、運転手が目的地のインターチェンジを降り忘れ、本来降車すべき場所ではなく2つ先のインターチェンジで降車することになりました。そこからバス会社が手配したタクシーで引き返しましたが、その移動により予定していた観光時間はほとんど失われました。 私は車内後方の座席に座っていたため、何が起きたのか十分な説明を受けることができず、前方で数名の乗客が手を挙げている様子を見ても状況が分かりませんでした。近くの乗客に尋ねて初めて美術館で降りる人たちであることを知り、その後も「次で降りてタクシーに乗ってください」という案内だけで、インターチェンジを降り忘れたという説明はありませんでした。この事実は、後日バス会社へ問い合わせた際に初めて知りました。 ようやく美術館付近まで戻れたものの、帰りの高速バスはすでに予約しており、残された時間は50分程度しかありませんでした。また、その場では返金の可能性があるかのような説明を受けたため、入館せずに帰る判断をしました。しかし後日、バス会社へ問い合わせたところ、「会社の規則で返金はいできない」との回答でした。 もしその場で返金できないことが明確に説明されていれば、短時間でも美術館へ入館していました。説明不足により適切な判断をする機会を失ったことに、大変納得がいきません。 私は消費生活センターにも相談しましたが、今回のような事案では強制力がなく、大変残念に感じています。今回の件は、単なる運転ミスではなく、観光客への説明不足や緊急時の対応にも大きな課題があると感じました。徳島県を訪れる観光客が安心して公共交通機関を利用できるよう、県として高速バス事業者への適切な指導や再発防止、利用者への説明体制の改善についてご検討いただければ幸いです。 私は徳島県や大塚国際美術館を楽しみに訪れました。それだけに、このような形で観光を断念せざるを得なかったことを非常に残念に思っています。 今後、私と同じ思いをする観光客が出ないように、ぜひ改善につなげていただきたくお願い申し上げます。
2	観光客が訪れやすい 県「徳島県」	・長野松本みたいに観光地化してほしいです。 松本みたいに徳島全体をきれいな丁寧な街並みにしてほしい。 信州の軽井沢は東京とか都会の人が休暇を使って休みに行く避暑地。 四国の軽井沢「徳島」とかキャッチコピーを掲げると県外からの観光客を呼び込めるかもしれません。徳島～三好にかけて特急列車を使用し、うだつの町並みを観光し、JR四国に乗り換えて、路線バスを使用し、祖谷のかずら橋に行き、観光出来ると思います。 大体の人が徳島駅前に降りてレンタカーを借りて観光すると思います。阿波踊り空港利用する人は松茂で降りていると思います。 また、レンタカーに乗りたくない人、もしくは普段、都会暮らしで免許は身分証明書扱いで使用しており、普段車に乗らない人は汽車に乗ると思われます。徳島県民は移動手段がほぼ自家用車率が高めですが、とにかく徳島は移動時間に時間がかかるため、大阪みたいに特急列車とか作ってほしいです。

4 観光

	タイトル	意見等
3	徳島県の観光振興について	○ 徳島県がミニカジノ・プチカジノを開業して、ミニカジノ・プチカジノ＋人間ドック健康検査診査＋阿波おどり体験で「メディカル・ヘルス・ツーリズム」の推進で徳島県の観光振興を図らなければならない。 ※ミニカジノ・プチカジノの管理運営者は徳島県観光協会が行う。 ※徳島県に訪日インバンド観光客を増し外貨獲得をして、徳島県の外貨準備高を高めて徳島県の財政を豊かにする。 そして、豊かな県民生活の向上のための財源・原資に充てる ⇒具体的には、アメリカ・カナダ・豪州・イギリスなどの観光客 ⇒具体的には、徳島市の阿波おどりにアメリカ・カナダ・豪州の訪日インバンド観光客が観光に来ていました。
4	「阿波踊りの自由の象徴」蜂須賀直孝の銅像を！	「阿波踊り」発祥の地とされる徳島への提案です。 阿波踊りが全国に広がり、各地で独自の発展を遂げている今だからこそ、発祥の地・徳島が、その歴史と史実を分かりやすく発信することが重要ではないでしょうか。 関東などでは、東京音頭など地域独自の音楽を取り入れた阿波踊りもYouTubeなどで見られます。だからこそ徳島では、「阿波踊りとは何なのか」「どのような歴史を歩んできたのか」を、史実に基づいて伝えていくことが大切だと思います。 そこで、非常に興味深い人物を知りました。 **蜂須賀直孝（蜂須賀一角）**です。 天保年間、徳島藩では武士が町の盆踊りに参加することが禁じられていました。しかし、千石取りの上級武士で、10代藩主・蜂須賀重喜の実子でもあった直孝は、その禁令を破って踊りの場に出ました。 発見されて座敷牢に入れられ、その後、牢を抜け出して讃岐まで行ったことも当時の日記に記されています。最終的には改易・追放という重い処分を受けました。 私はこの人物を、単なる「禁令を破った武士」ではなく、**「身分を超えて人を踊らせる、阿波踊りの自由の象徴」**として顕彰してはどうかと思います。 そこで提案です。 阿波おどり会館前の公園のようなスペースに、蜂須賀直孝（蜂須賀一角）の銅像を設置してはいかがでしょうか。 ほうかぶりで顔を隠し、刀を差した武士が、阿波踊りを踊っている姿です。 「武士なのに、なぜ踊っているの？」 観光客がそう思い、そこから阿波踊りの歴史を知る。そんな新しい徳島の観光スポットになれば面白いと思います。 阿波踊りの「自由」の象徴として、蜂須賀直孝を現代の徳島に蘇らせる。 ぜひ一度、ご検討いただけないでしょうか。😊
5	徳島県の観光振興について	○徳島県が観光振興の取り組みの一環として、訪日インバンド観光客を対象とする人間ドック健康診断診査＋クアハウス（多目的温泉保養施設）又は大江戸温泉物語でのくつろぎの温泉入浴＋徳島県産の食材を利用した郷土料理＋阿波おどり会館での阿波おどり体験等の「メディカル・ヘルス・ツーリズム」の推進を行われなければならない。